



目次

- ざまシニアサポーター育成講座(2面)
- みんなの健康(3面)
- 市民参加の実施状況(4面)
- 座間市民健康マラソン大会協賛企業募集(5面)
- ざまインフォメーション(6・7面)
- 座間市民芸術祭展示部門作品募集(8面)



語り継ぐ平和への願い

終戦から72年が経ち、戦争を知らない世代が増えた今、戦争を体験した方の話に触れて、今一度、戦争について考えましょう。

担当

広聴人権課 ☎046(252)8087 FAX046(252)0220



波多野 勇造さん (新田宿)

小林 ツネさん (座間)

兵隊としての戦争

終戦の1年くらいほど前に召集令状が届いて通信兵として入隊しました。

船がなく、戦地に行くことができないため、甲府の練兵所に配属となりました。その後、米国が相模湾に上陸するという情報を受けて、大磯へ移動し、そこで終戦を迎えました。

大磯では、平塚の空襲の消火にトラックで駆け付けましたが、道路に焼夷弾が刺さったままだったので、トラックを降り、走って向かったのを覚えています。幸いにも、同期で入隊した約30人の新兵は、誰一人、戦地で命を落とすことがありませんでした。

軍隊での訓練は厳しく、精神的に鍛えられましたが、これからの世代には、戦争を経験してほしいと思いません。

戦争中の生活

小学3年生くらいから戦争が始まり、学芸会など楽しいことはなくなってしまいました。

戦争が進むにつれて、食べ物が乏しくなり、農家だった自分の家には、着物と食べ物を交換してほしいと人が訪れることがありました。

終戦の数日前に、家の近くで戦闘機が機関銃を発射して、座間小学校の窓ガラスが全て割れました。子どもを抱いて防空壕に隠れていましたが、地鳴りのようなものすごい音は、今でも忘れることができません。近所の方が足を撃たれましたが、大事には至らず、今でも元気だと聞いています。

あの時、日本が必死に争って奪ったものは、結局なくなってしまいました。二度と戦争なんて考えを持たないでほしいです。

平和な世界を願って黙とうを

広島・長崎市へ原子爆弾が投下された日時に、市内の神社や寺院などで一斉に鐘を鳴らします。原子爆弾の犠牲者の冥福と恒久平和を祈り、黙とうをささげましょう。

また、8月15日(火)には、戦没者追悼と平和を祈念し、正午に1分間の黙とうをささげましょう。

○とき ▽**広島市** 8月6日(日) 午前8時15分▽**長崎市** 8月9日(水) 午前11時2分

担当 広聴人権課 ☎046(252)8087 FAX046(252)0220

座間と昭和の戦争

昭和11年、手狭になっていた市ヶ谷の陸軍士官学校などの移転先として座間地域が選ばれました。同校の設置に伴い、座間村に町制が施行され座間町となりました。

日中戦争が拡大すると、座間地域などには、病院、造兵廠、兵器通信・機甲整備学校など多くの軍事施設が設立されました。また、周辺の村との合併が行われ、相模原町となりました。

太平洋戦争が進むと、座間地域南部を中心に戦闘機生産工場の高座海軍工廠が建設されました。戦争末期には、座間地域でも空襲があり、工場の地下化が行われました。

終戦を迎えると、陸軍士官学校と高座海軍工廠は、米軍を主体とする進駐軍に接收されました。

ひまわりまつり 座間会場 **8月10日(木) ~ 15日(火)**

ひまわりまつり実行委員会事務局 (商工観光課内) ☎046(252)7604 FAX046(255)3550

希望者への「広報ざま」の戸別配布を実施中

※新聞を購読されている方には、新聞に折り込まれます。

○新規のお申し込み 申込専用電話 ☎046(252)8684 (市政戦略課)
○届かない場合 (株)神奈川新聞総合サービス ☎0120(111)429 (無料)

